

リスクアペタイトフレームワーク

HCアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者
加入協会

関東財務局長（金商）第430号
一般社団法人日本投資顧問業協会
日本証券業協会
一般社団法人投資信託協会

<https://www.fromhmc.com>

2021.10.26

人+産業金融=成長
成長を支える投資の原点へ



リスクアペタイトフレームワーク

事業あるいは投資目的の遂行のために、積極的にリスクを求めるアペタイト、即ち、リスク志向性を核としたリスクテイク戦略のこと。事業活動あるいは投資活動に伴う諸リスクを、本源的リスクテイク、付随リスク、非本源的リスクに峻別し、階層化したリスク体系。

本源的リスク

付加価値源泉となるリスクテイクの対象（戦略的リスクテイクの対象）。運用会社評価の視点で考えるなら、目標利回りの妥当性、投資対象の確実性の検証、本源的リスクを付加価値に転換するために必要なスキルなどである。

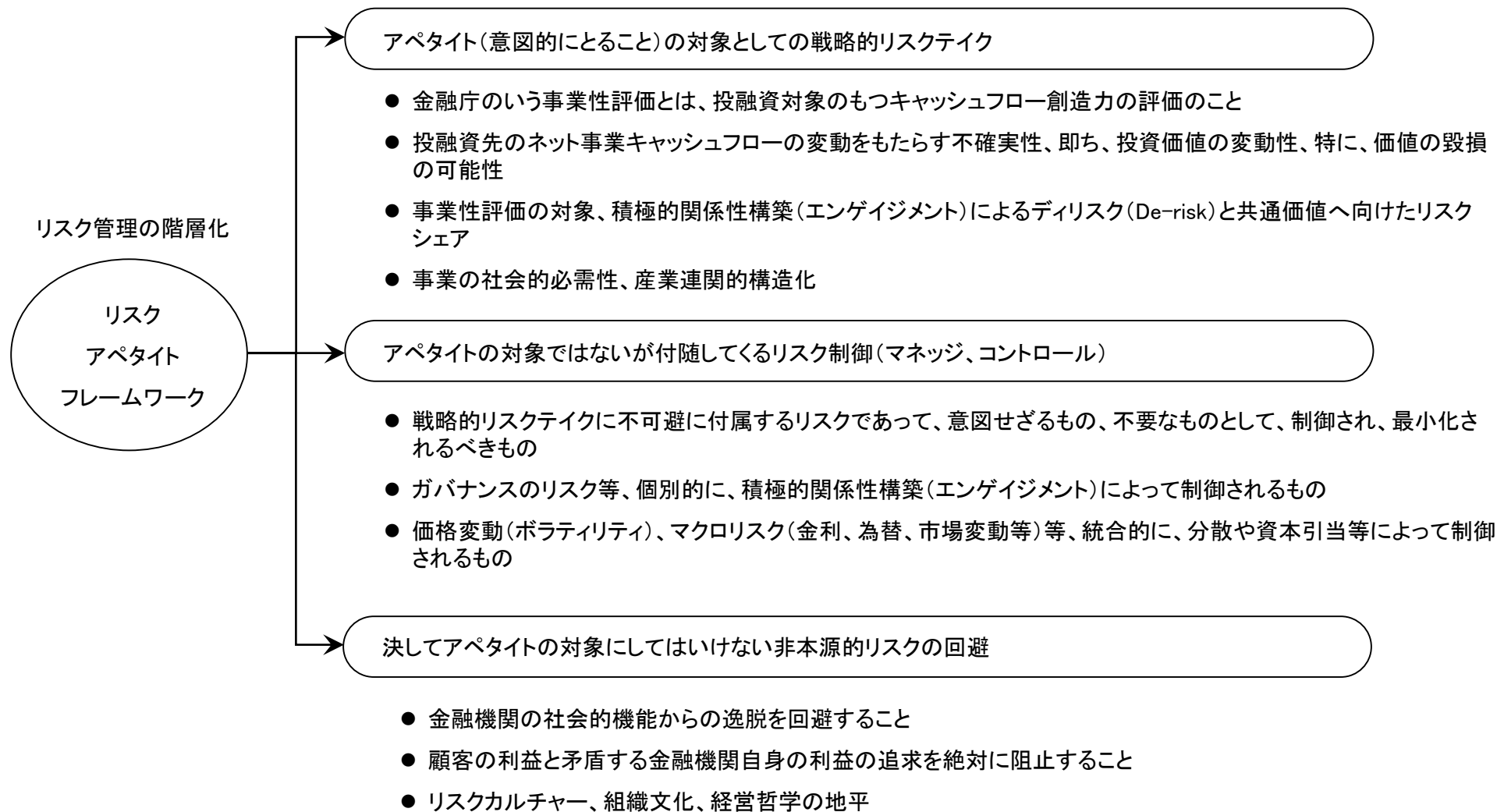
付随リスク

付随リスクは、戦略的リスクテイクに不可避に付随するリスクであって、意図せざるもの、不要なものとして、制御され、最小化されるべきものである。投資運用でいえば、市場リスク、金利リスク、借り換えリスク、規制リスク、ガバナンスのリスク等である。

非本源的リスク

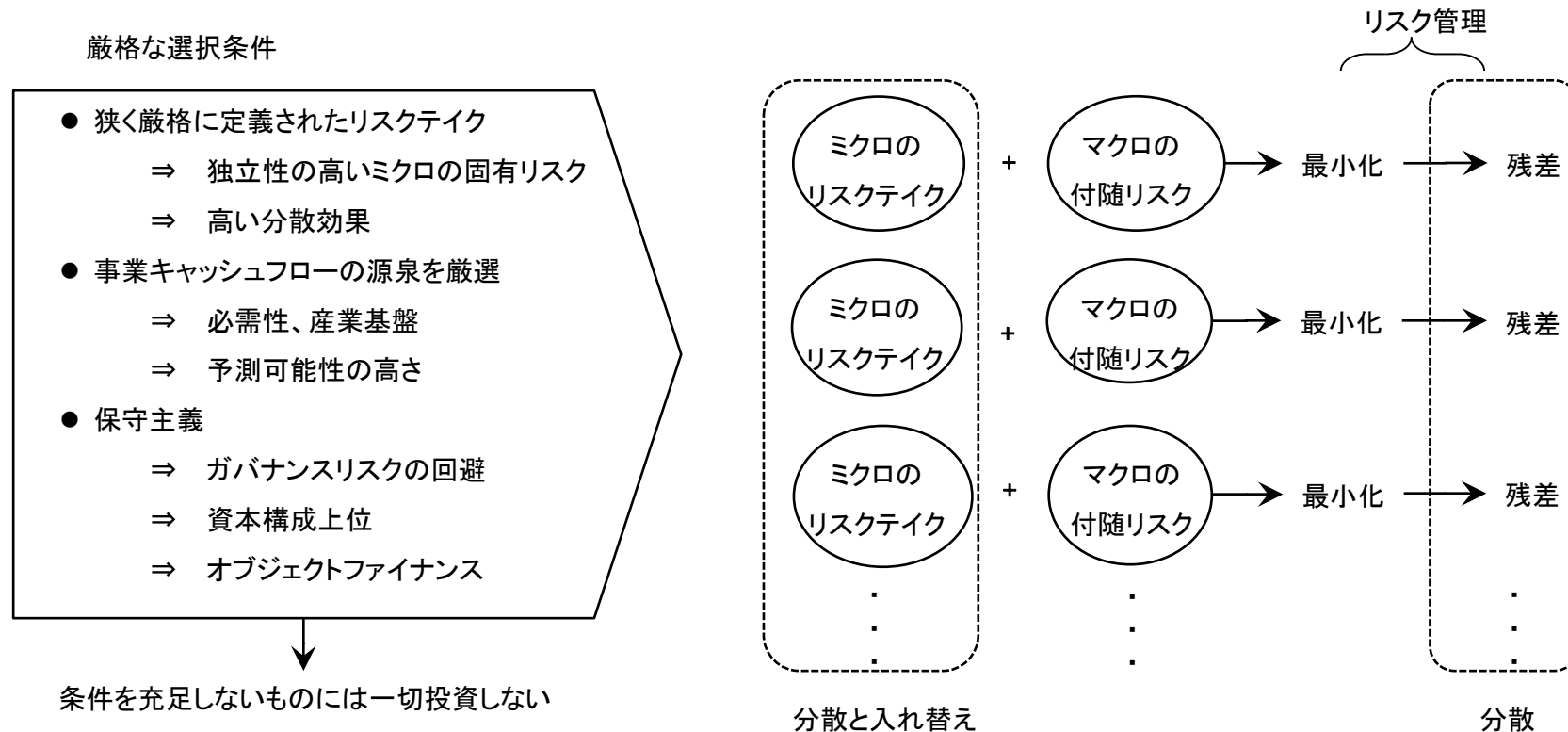
決して手を出してはならない領域（戦略的リスクテイクの対象に含まれていないもの）である。投資方針の揺らぎや弛緩のなかで、投資目的から逸脱したリスクをとってしまう可能性もある。そのような非本源的リスクをとることのないように、ガバナンス体制確立の必要がある。

リスク管理の階層化



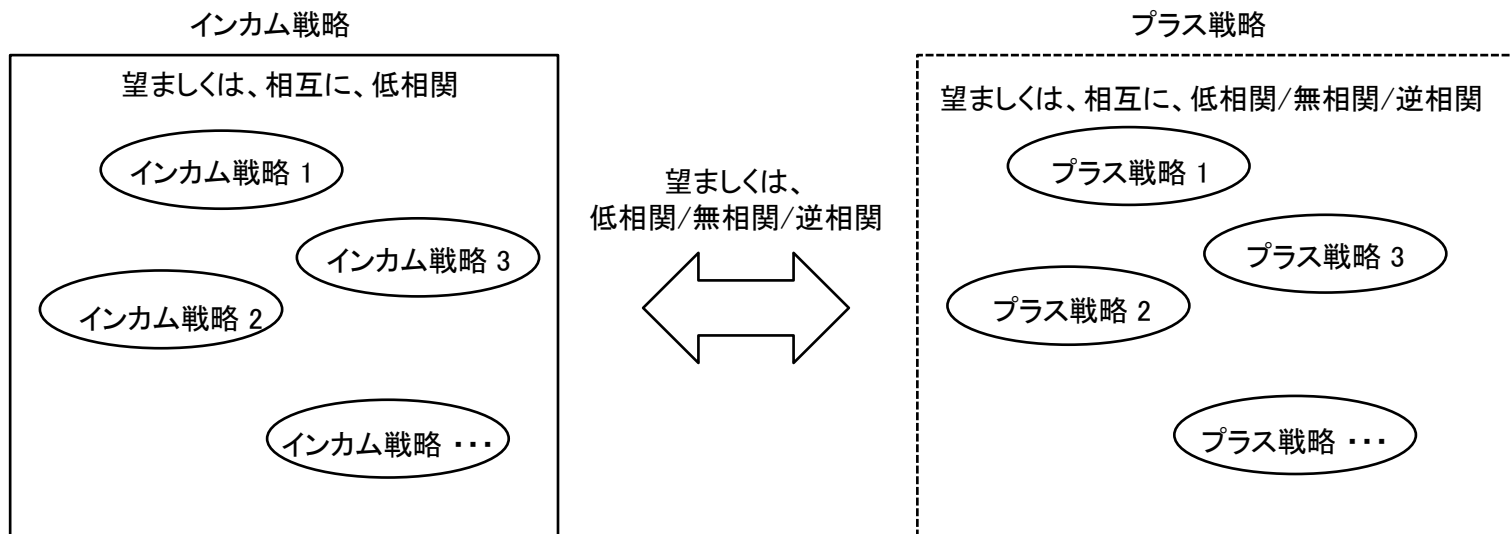
リスクアペタイトフレームワークの適用

リスクアペタイトフレームワークの最高度の適用＝①意図的なリスクテイク、②付随する意図せざるリスクの最小化、③テイクしないリスク(テイクするリスクの厳格な制限)



- ☞ 顧客が異なる条件を定めない限り、全ての投資対象、全ての顧客に共通の原則として機能する
- ☞ 例えば、株式投資についていえば、銘柄の厳選(ガバナンスリスク回避等)と必需性の高い産業への傾斜となり、債券についていえば、金利・為替リスクを最小化して、信用リスク等における銘柄の厳選となる。また、総合型戦略(インカムプラス)では、資産種類の伝統的定義を解体して、事業キャッシュフロー源泉に遡って再構築する戦略になる
- ☞ 投資の実行は、全て、外部の運用会社の選定を通じて行うので、原則は、同時に、運用会社選択の原則として機能する

リスク分散かリスク追加か



- リスク分散効果を積極的に狙う投資の考え方では、あるリスクをとることは、全体リスクの削減として正当化され得る

$$\text{リスク総量} = \text{戦略 1 のリスク} + \text{戦略 2 のリスク} + \dots + \text{戦略 3 のリスク} - \text{分散効果}$$

- リスク分散効果を想定しない保守主義(ストレスシナリオ)では、あるリスクをとることは、常に、リスクをとることとして認識される

$$\text{リスク総量} = \text{戦略 1 のリスク} + \text{戦略 2 のリスク} + \dots + \text{戦略 3 のリスク}$$

- 本ウェビナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討を行うものであり、当社が行う金融商品取引業の内容に関する情報提供及び関連する特定の金融商品等の勧誘を行うものではありません。
- 本資料中のいかなる内容も将来の投資成果及び将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 本資料の著作権その他知的財産権は当社に帰属し、当社の事前の許可なく、本資料を第三者に交付することや記載された内容を転用することは固く禁じます。